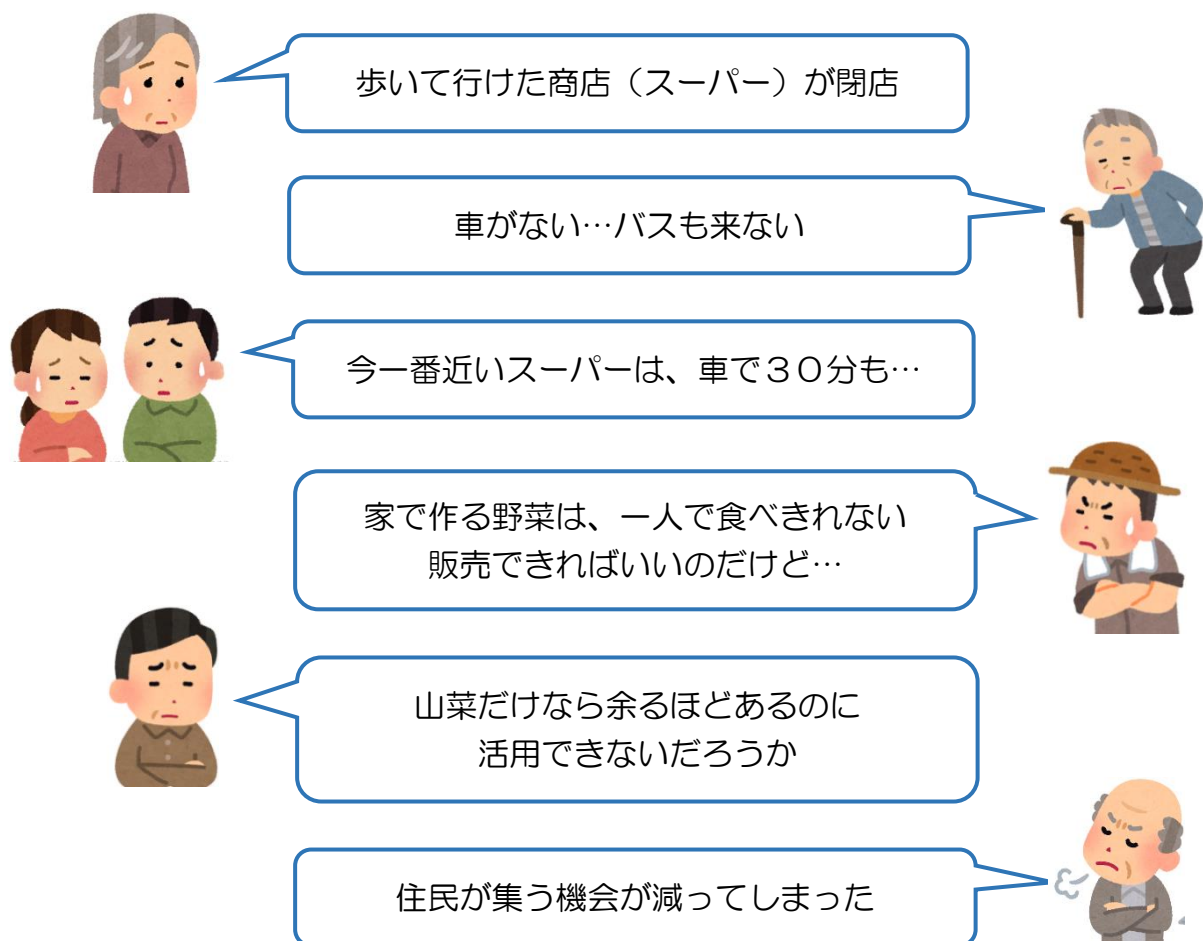


Ⅱ 地域での「困りごと」と住民主体の解決

1 地域にはどんな「困りごと」がありますか

人口の減少や高齢化が進む中、各地域ではいろいろな困りごとが生じています。
あなたの地域では、どんな「困りごと」がありますか？



地域により様々な「困りごと」がありますが、多くの地域に共通する問題として、人口が減少し高齢化が進んでいることが挙げられます。人口減少と高齢化を背景にして、地域から商店（スーパー）や、バス路線などの公共交通機関が撤退し、住民の買い物に困難になっている状況がみられます。

この買い物の困難という「困りごと」を解決し、地域において住民が暮らし続けることができるように、地域住民が主体となって解決する取組が行われています。



地域住民が主体となり、お互いに協力しあって課題を解決しましょう！

2 住民が主体となり地域課題を解決する「お互いさまスーパー」

(1) 「お互いさまスーパー」の特徴

「お互いさまスーパー」は、地域の「困りごと」を解決するため、住民自らが主体となって買い物場となるミニショップを開設、運営する取組で、次のような特徴を持っています。

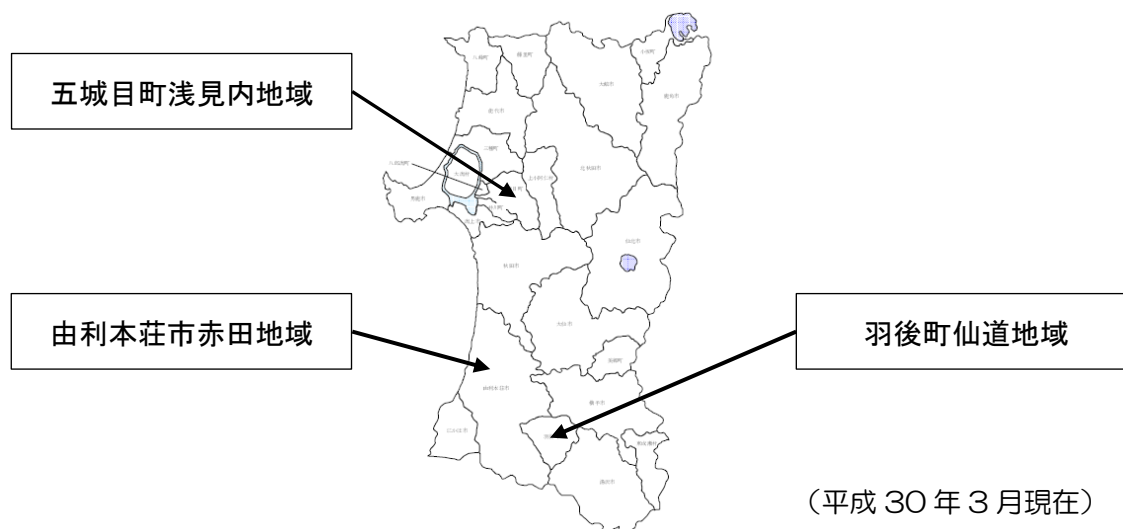
- ・地域住民自らが主体となって開設・運営します
- ・日常生活に必要な、食料品や日用品を買うことができます
- ・生活サービス機能や地域活動の「拠点」の性格も持っています

(2) 「お互いさまスーパー」の取組

「お互いさまスーパー」は、地域の課題を解決し地域の維持・活性化を図るために、住民が主体となって次のような取組を行っています。

- ・買い物場をつくります
- ・地域住民の集いの場を確保します
- ・地域住民が活躍する機会を生み出します
- ・農産物や山菜など地域にある資源を活用します

(3) 「お互いさまスーパー」が運営されている地域



ヒント！ お互いさまスーパーの「お互いさま」とは？

「売る側」も「買う側」も同じ住民であり、「お互いさま」の精神が大切です。

「お互いさまスーパー」は、地域住民が協力し、一体になって運営していく取組です。

3 「お互いさまスーパー」を運営するために必要なこと

(1) 「お互いさまスーパー」が解決する地域の課題は何ですか

- ・買い物、交通が不便。
- ・地域住民の「交流の場」がないこと。
- ・地域住民が活躍する（働く）場がないこと。
- ・地域の農産物や山菜などを販売、活用する方法がないこと。

「お互いさまスーパー」は、これらの地域課題の解決をミニショップの運営という形で行うものであり、「コミュニティビジネス」としての性格をもっています。

(2) 「コミュニティビジネス」とは、どのようなものですか

- ・地域が抱える課題を
- ・地域住民が主体となって
- ・地域にある資源を活用しながら
- ・ビジネス的手法によって解決しようとする「事業」

(3) 「コミュニティビジネス」をうまく運営するために何が必要ですか

- ・「事業」を継続していく「しくみ」をつくること。
- ・そのしくみを「働かせる」工夫をすること。

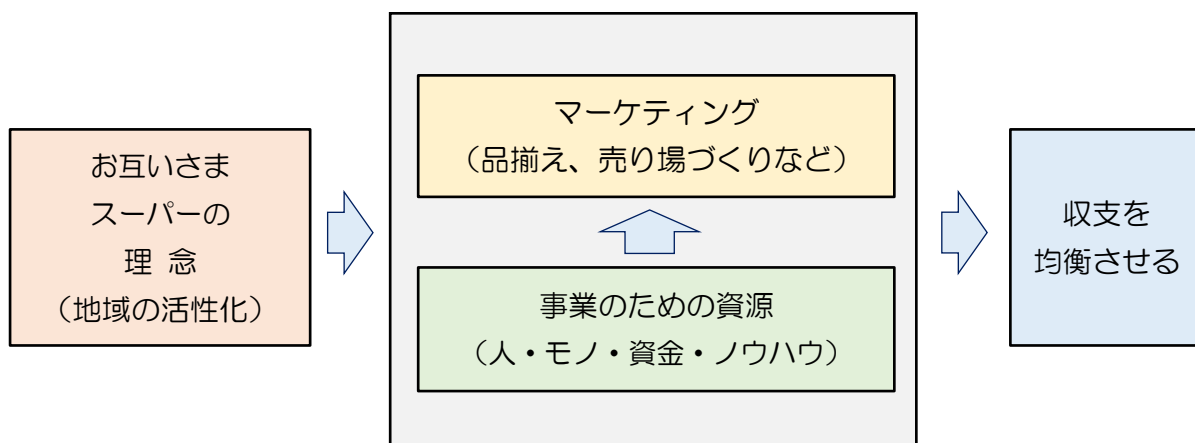
4 「お互いさまスーパー」の事業としての「しくみ」

「お互いさまスーパー」は、「日用必需品の買い物の場がほしい」という地域住民のニーズに応えるために、事業を継続していくことが必要となります。

事業としての「しくみ」は次のような成り立ちになっています。

(1) 事業としての「しくみ」

「地域課題を解決し、地域を活性化させる」というお互いさまスーパーの理念を実現するために、人・モノ・資金・ノウハウという資源を確保し、住民のニーズに応える「品揃え」「売り場づくり」などのマーケティングを行い、その結果として収支を均衡させる「しくみ」を作ります。



(2) 住民のニーズに応えるマーケティング

「お互いさまスーパー」は、お客さんである地域住民の買い物ニーズに応えるために、住民が毎日の生活で必要とする商品を「品揃え」し、買い物のしやすい「売り場づくり」を行い、利用しやすい営業日・営業時間などの「営業方法」を設定するなど、店舗運営の活動を行います。

このような活動の全体を「マーケティング」と呼びます。

